

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和元年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	広島大学	整 理 番 号	1 8 1 3
プログラム名 称	ゲノム編集先端人材育成プログラム		
プログラム責任者	河原 能久	プログラムコーディネーター	山本 卓
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムに参加する学生の所属する研究科・専攻の統合生命科学研究科・医系科学研究科への再編、他大学、OPERA 参画企業との連携による支援指導體制の整備が進んでいる。また、従来のリーディング機構を、学長を機構長とする卓越大学院・大学院リーディングプログラム機構に再編し、そこに卓越大学院プログラム部門を置くなど、プログラムの評価体制を含め運営体制が順調に立ち上がっている。 ・学生の研究に必要な新しい設備備品の導入が順調に進んでいる。 ・学生の応募は、初回となる平成 31 年度 4 月入学者選抜試験において 13 人、うち 12 人が合格（D1：9 名（入学定員 10 名、D3：3 名）、メディカルコースは D1 が 1 名）。注目されている分野としては応募者が多いとは言えない。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島大学としての大学院教育システム改革は、研究科の再編や大学院共通科目の開設など、順調に進んでいる。他方、本プログラムは研究科の再編で新設された統合生命科学研究科と医系科学研究科の 2 つの研究科で進められ、大学院全体のシステム改革を先導する位置付けとなっているが、所属する研究科・専攻の科目に加えて本プログラムの専門科目を修得するアドオンの形になっており、学位も研究科から授与される。現状では学位プログラムとして博士課程教育リーディングプログラムで既に実現しているシステムの範囲を超えていない。このため、本事業のどのような取組を大学院全体の改革につなげていくのか明らかにする必要がある。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲノム編集に関する講義群が現状では関連する知識等を学ぶことができるという域を出ていない印象である。「ゲノム編集を核としたバイオ分野における新産業創出をリードする」という人材養成像を踏まえ、学生それぞれの研究にゲノム編集が組み込まれているという段階を超え、社会における様々な問題を捉え解決することができるよう、倫理的、人文・社会科学的、あるいは情報学的な観点も含め、本プログラムにおいて養成する高度な博士人材としての「知のプロフェッショナル」の基盤となるゲノム編集の学修を体系的に構築することが望まれる。 ・単にゲノム編集に関わる技術を習得するだけで終わらないよう、学生同士や学生と教員、参画企業との交流の仕組みを積極的に構築することや、メンター制度を導入することで、学生自身のモチベーションを引き出し、それぞれの研究の幅に広がりを持たせることを期待したい。 ・優秀な学生の確保の観点からも、大学内外に対するプログラムのより積極的な周知活動が望まれる。 ・学生に対する経済的支援は、当初計画どおりに進められており、令和 2（2020）年度からは広島大学基金を原資として本プログラム独自の奨学金を支給することになっているが、学生に十分に周知されていないため、既にプログラムに在籍する学生や応募者に対し丁寧に説明することが望まれる。また、学生へのインセンティブとなるよ 			

うな経済的支援の方法について、今後も引き続き学内で更に議論が行われることを期待する。